ゆめじゅく 12月

瀬戸会館

〒792-0821　新居浜市瀬戸町７－30
Tel：0897-41-5859（Fax 兼用）
E-mail：seto@city.niihama.ehime.jp

△月◎日（●曜日）　日直　高津　浦江

１２月の行事予定

★移動図書館青い鳥号
12 月 9 日(水)・24 日(木)
14 時～14 時 40 分

★ゆめじゅく編集委員会
12 月 11 日(金)13 時 30 分～

★「人権のつどい日」
12 月 11 日(金) は 12 日(土)ふれ愛フェスタ～ハート FULL 新居浜～開催のためお休み

★回転木馬（瀬戸児童館）
12 月 15 日(火) 10 時 30 分～11 時 30 分

★人権・同和教育関係行事
ふれ愛フェスタ～ハート FULL 新居浜～
日　時　12 月 12 日(土)　10：00～
第 1 部 10：00～12：20
第 2 部 14：00～
講演「夢と絆」
講師　蓮池　薫さん
場所　あかがねミュージアム

てんこく

瀬戸会館サークル紹介
（篆刻・水美会）

篆刻（てんこく）とは

主に篆書体の文字を印材（石・木・竹など）に刻することから、「篆刻」といわれています。書画作品を制作される方には落款印として、欠かすことの出来ないものとなっています。

篆刻は方寸の世界といわれ押印された紙面には朱と白のコントラストが美しく、造形芸術が盛り込まれた小さな芸術として楽しまれております。

水美会

ストレス？　悩み？　何それ？
体を大きく動かして、大きく口を開けて笑って、大きな声でしゃべって、最高の時間がここにある。
心は 20 代？　30 代？
なんだかんだといっても、今があるから幸せです。そんな気持ちに一週間に一度くらいなってみませんか？怖いもの見たさで、違う自分を、みんなで発見しましょう。

平成27年度愛媛県人権同和教育研究大会開催

11 月 10 日（火）松山市ひめぎんホールにて平成 27 年度愛媛県人権・同和教育研究大会が開催されました。
午前中は「捨聖一遍の人権と詩聖真民の目線」と題し、元愛媛県立図書館長武智利博さんの講演があり、午後からは各分科会に分かれ実践報告がありました。各報告者の熱い思いが強く伝わりました。

年末大掃除のお願い

瀬戸会館の大掃除を実施いたします。大掃除終了後みんなで軽い昼食を楽しみたいと計画しています。作業・昼食を通じて、サークルの皆さんの触れ合いも深まればと思っています。皆さんのご参加・ご協力をお願いします。

日時：12 月 13 日(日)10：00～12：00 瀬戸会館にて

ちょっと考えてみませんか

早速、ピンポン・詩吟・囲碁・水美会の４つのサークルさんが、学習の時間を設定してくださいました。いろいろな場面を DVD で見た後での感想は、女性問題についての内容が中心になりました。「女のくせに、女だてらに、という意識は今もある。」「俺が食べさせている、という意識を持っている人は年配の人にはまだまだ多いと思う。」女性が入れてくれたお茶はやはりおいしい、という場面について、問題ではあるが、じゃあ、どういうことが言えるかについて、いろいろな意見が出ました。

人権のつどい日　「あなたに伝えたいこと」のDVD鑑賞＆ピアノの調べ

　ショパンの「別れの曲」で 11 月の人権のつどい日は始まりました。進行役の人権擁護課、坪本道夫さんの指で醸し出される、室内を満たす力強いピアノの調べ。参加者に、坪本さんの優しい想いが全身から伝わってきました。そのあと、「あなたに伝えたいこと」という、DVD を視聴しました。

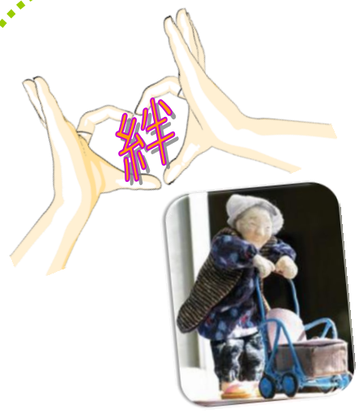
　内容は、「同和問題は自分には関係ないと思っていた、主人公の若い女性(真央)が、自分自身の結婚話をきっかけに、同和問題が他人事でないことを知りつらい思いをかみしめるが、恋人や友人、そして家族の優しさに支えられて、幸せの道に一歩を踏み出す。」というものです。

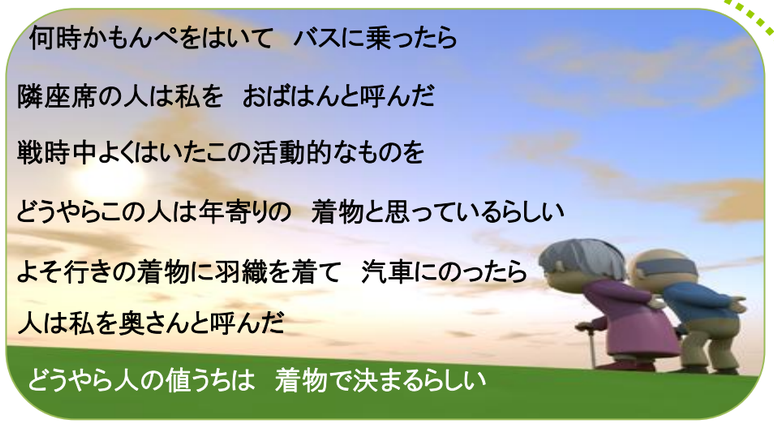
　参加者の感想も、「私の横にいる人も、口には出さないけれど人権問題で、本当は今、苦しんでいるかもしれない。…　と思うことを忘れないでいたいと思います。」「DVD を見て泣いてしまいました。もっともっと勉強しなければいけないと思いました。」「やはり、一番根底にある同和問題を柱とした人権教育が必要であると思う。」など、初めて参加の人も含めて、人権学習の必要性を改めて感じさせてくれる研修会になりました。

　最後に、ショパンの「英雄ポロネーズ」。人権問題に、自分の問題として取り組み、すべての人が幸せに暮らせるように頑張っていこうという、力強いメッセージが伝わってくる演奏で、会が終わりました。

差別をなくする県民のつどい

　午後からの開催となった「差別をなくする県民のつどい」は松山市のひめぎんサブホールで開催されました。1,000 人規模で行われた本つどいは、映画監督、纐纈あやさんから「ある精肉店のはなし」の映画製作を通じて、同和問題や偏見に対する監督の想いを語っていただきました。被差別部落ゆえのいわれなき差別を受けてきたある精肉店の一家族のこれまでの生きざま、1 年間の生活が 1 時間 48 分の映画に凝縮しているという。「命のあるものには「熱」が宿っている」という講師の言葉には大いに刺激を受けました。また、外から知らず知らずに差別、偏見のタネがまかれ、そして芽が出て成長した、それを摘み取るのは自分の経験を基に、自分で取り除くしかないと思っているとのこと。
この日はダイジェスト版の視聴でしたが、命を食べて人は生きている、肉を食べている以上、本編は見ておくべきだと痛感しました。いや、是非見てみたいと思いました。





　これは、江口いとさんの「人の値うち」という詩の１節です。この後江口さんは、人の値打ちは、肩書で・学歴で・生まれた所で決まるらしいと続け、「人々はいつの日　この過ちに気付くであろうか」と結んでいます。

　この詩が書かれて、長い年月が経っていますが、「着物で・肩書で・学歴で・生まれた所で」人の値うちを決めている人は、残念ながらまだいます。人の本質を見ず、その人を傷つけ、自分自身を傷つけていることの愚かさに気づいていない人です。

　江口さんが、そして私たちが熱望している、一人一人の笑顔がはじける世界。No1 ではなく Only one が尊重される世界。それを実現させることは、決して難しいことではないと思います。何も、みんなが、世間が、と力む必要はありません。あなた自身の、あなたの隣にいる人の持つ「人の値うち」を「見る目」を本物にしていけばいいのではないでしょうか。私も、自分自身の中にある「人の値うち」をこれからも見つめ、磨き続けようと思います。

第52回　全国隣保館長研修会 in 大阪

　10 月 20 日・21 日の両日、全国から館長を中心とした隣保館職員 350 名余りが参加して研修会が行われました。20 日の昼からの記念講演は、NPO 法人抱樸(ホームレス支援)理事長奥田知志さんによる、「助けてと言える社会を目指して」という演題のお話でした。

- ○　絆（きずな）は傷（きず）を含む。絆を育むためには、傷つくこともある。それを恐れずに、一歩踏み出せるかどうかが大切である。社会とは、より多くの人が健全に傷つくための仕組みである。
- ○　処遇の支援(点の支援)から存在の支援(線の支援)に。支援者との伴走は、課題解決のための手段ではなく、伴走そのものが支援である。
- ○　自立した者が社会に参加できるのではなく、社会参加は自立の前提として必要である。

など、奥田さんの熱い想いが伝わってくる講演でした。